

CASE PRESENTATION

Dentist

Technician

Hygienist

新しいホワイトニング材「ティオン」を用いた ホワイトニングからはじめる審美修復



東京都 大谷歯科クリニック
歯科医師

大谷一紀

はじめに

健康歯質を削ることなく比較的容易に歯を白くすることが可能なホワイトニングにはオフィスおよびホームホワイトニングの2つの方法があり、白い歯のニーズとその処置の簡便さも相まって歯科臨床の現場で広く応用されている。今回紹介する新しいホワイトニング材である「ティオン」にもオフィスおよびホームホワイトニングがあり、それぞれの特徴を理解し患者のニーズあるいはライフスタイルに合わせて適切なホワイトニングを行うことができる。ホワイトニング施術時の代表的な不快症状には術中あるいは術後の知覚過敏があり、特にオフィスホワイトニングにおける知覚

過敏が問題となることがある。

オフィスホワイトニングでこのような症状が出やすい原因として、

①ホームホワイトニングに比べて高濃度な薬剤の問題

②光照射の熱による刺激

の2つが考えられるが、「ティオン オフィス」は触媒に窒素ドープ型酸化チタン（可視光応答型光触媒「V-CAT」）を応用することで、熱だけでなく安全な可視光線の領域で反応するため、低い過酸化水素濃度（約23%）でも高いホワイトニング効果が得られ、発熱の少ない照射器の使用が可能である。欧米人に比べてホワイトニングによる

疼痛あるいは知覚過敏の発生頻度が高いといわれている日本人向けのホワイトニングシステムであろう。

今回は、この「ティオン オフィス」および「ティオン ホーム」を用いたホワイトニングの症例だけでなく、最初にホワイトニングを行った後にダイレクトボンディングによるコンポジットレジン修復およびセラミック修復処置を行うことで、患者の「白い歯」になりたいという希望を叶えた症例についても紹介させていただこうと思う。これまで、ホワイトニングにあまり関心なかった先生方にも興味を持っていただけたら幸いである。

「オフィスホワイトニング」と「ホームホワイトニング」の使い分け

オフィスホワイトニング

- 短時間で歯を白くしたい患者（結婚式まで日数がない患者など）
- 強いブラキシズムのある患者（マウスピースがすぐに穴が空いてしまう）
- 楔状欠損による強い知覚過敏のある患者（ホワイトニング部位をコントロールしやすい）
- 他人に知られずに歯を白くしたい患者（自宅や会社などでホームホワイトニングができない方など）
- ホームホワイトニングの既往があり、続かなかった患者
- ホームホワイトニングのみ強い知覚過敏がでる患者（オフィスホワイトニングは知覚過敏がでない患者もいる）

ホームホワイトニング

- オフィスホワイトニングの既往があり、強い知覚過敏があった患者
- 強い変色があり（テトラサイクリン歯を含む）、ホワイトニング完了までのホワイトニング期間が長くなることが予想される患者

A-1 「オフィスホワイトニング」と「ホームホワイトニング」の使い分け。

ホワイトニングの進め方

- 診断と患者さんの要望により、オフィスまたはホームホワイトニングを選定し処置する。
- ホワイトニング処置後の診断と患者さんの要望に基づき、必要に応じオフィスまたはホームホワイトニングを繰り返し行い処置を終了する。

A-2 ホワイトニングの進め方。

症例1



1-1 術前。患者はホワイトニングを希望して来院した。



1-2 術後。1回のオフィスホワイトニングと約2週間のホームホワイトニングで患者の希望する歯の色になった。

症例2



2-1 術前。同じくホワイトニングを希望して来院した。[23]にはコンポジットレジン充填がされている。



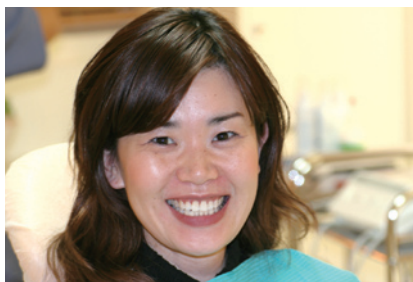
2-2 術前の笑顔。



2-3 歯が白くなると、既存の充填物との色調の不調が目立ってきたため[23]にコンポジットレジンにより充填を行った。術前のカウンセリングが重要である。



2-4 術後。1回のオフィスホワイトニングと約3週間のホームホワイトニングを行った。



2-5 大きく口を開いて歯を見せて笑うようになったため、笑顔が明るくなったように感じる。

症例3



3-1 上顎4+4にオールセラミックス修復を行う患者であるが、下顎(A2~3程度)よりもかなり白い歯(B1よりも白い歯)を望んだため、下顎には「ティオン オフィス」を1週間おきに4回とホームホワイトニングを行った。



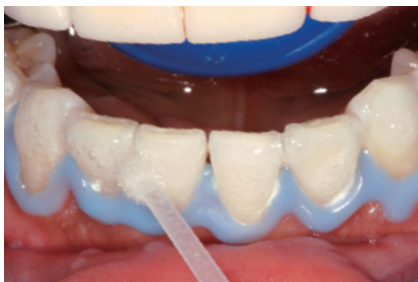
3-2 「ティオン オフィス」は歯面清掃および歯肉保護を行った後にリアクターを塗布する。



3-3 ホワイトニングジェルの混和。



3-4 混和したジェルをシリンジBへ全量移し、ディスプレイブルファイバーチップを付ける。



3-5 混和したホワイトニング材を歯面に薄く(0.5~1.0mm)塗布する。これは、歯面に塗布したリアクター(光触媒)に光が届くようにするため、ホワイトニングジェルを厚く塗るとホワイトニング効果が低下するので注意が必要。



3-6 「G-ライト プリマII」を用い、1歯あたり1分間ずつ光照射し、これを3回繰り返す。



3-7 光照射後は綿球などを用いて薬剤を簡単に取り除き、CPP-ACPを主成分とした口腔ケア製品「MIペースト」を、歯面全体に塗布してミネラルバックする。



3-8 B1程度になったため、上顎のセラミック修復を再開した。



3-9 術後。下顎よりも白い歯を装着したが、下顎をホワイトニングしたことによって対話距離において色調の差は気にならない。



3-10 患者の口元の写真。白い歯は若くて健康的な印象を与える。

症例4



4-1 術前。



4-2 シェードガイド確認。



4-3 ホワイトニング1回目。



4-4 ホワイトニング2回目。



4-5 プロビジョナルレストレーション。



4-6 オールセラミッククラウンの試適。



4-7 セット後。



4-8 術後。



症例5



5-1 歯の色・形態・歯並びの改善を主訴に来院した。



5-2 矯正終了時の正面観。知覚過敏および歯髄炎により上顎2+2は根管治療後セラミック修復を行うことにした。上顎はプロビジョナルレストレーション(「ユニファストⅢ」A2)。



5-3 ブラケット除去後 543|345、5+5のホワイトニングを行う。



5-4 歯肉保護を行う。



5-5 リアクターの塗布。



5-6 ホワイトニング材を塗布し、「ライトプリマⅡ」を用い、1歯あたり1分間ずつ光照射し、これを3回繰り返す。



5-7 VITAシェードガイドで漂白レベルを確認する。B1とほぼ同等の明るい色調になった。



5-8 支台歯形成。



5-9 術後。矯正治療後、セラミックによる修復を行う上顎2+2以外の歯に対してホワイトニングを行うことによって、患者の希望する白いセラミッククラウンを装着しても、下顎との色調の不調和のない修復をすることができた。